

# YOUTH MANNA

Grace  
Community  
2024  
**Be**

Acts 2:42



彼らはいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた。  
使徒の働き 2章42節

2025/2/24(月)

## レビ記 14:1-20

ツアラアトに冒された人がきよめられた時、きよめの儀式を行ったよ(4-8節)。一羽の小鳥が殺され、もう一羽が血に浸された後で自由にされるのは、イエス様の十字架と復活が表されている。

その後、きよめられた人はささげ物を持って来る(10-13) それ以前にささげることの出来なかったものを献げるためだ。癒されて良かったで終わらず、きちんと神様の前に出ることは、今の私たちも学ぶことがあるね。

★最後の儀式(14-20)は、祭司が任務につくときと同じ儀式なんだ。ただ回復しただけでなく、神様の民としての使命を自覚して歩むことを思い出させるものだったよ。今日、何のために生きるのか、神様の前に出て、思い出し祈ろう！

2025/2/25(火)

## レビ記 14:21-57

ツアラアトに冒された人が貧しい場合のおしえが21-32節に書いてある。この箇所から、神様がどんな方であると思ったかな？

33節からは、ツアラアトが家に広がっている場合について書いてある。これから入ろうとしているカナンの地では、異教の習慣や風習があって、非常に罪深いことが行われていたんだ。だから、土地や家の汚れも同様に気をつける必要があったんだね。

●汚れと見なされるものに、私たちは普段どれだけ接しているだろうか？その影響を感じた時は十字架の血潮で洗いきよめてくださいと祈ろう！

●神様にあるきよさとは何だろうか？考えてみよう！

2025/2/26(水)

## レビ記 15:1-15

今日のテーマは性に関する大切なこと。中高生のみんなにもどの世代の人にも！

隠しどころといわれる性に関することは、間違った使い方をすると汚れてしまう可能性がある。1-12節はその汚れの影響について。性に関わる汚れは深くダメージが残る。でもきよめがある。13-15節では旧約の時代の人々のきよめの方法。大切なのは「主の前」に出ること。そこにはきよめ、安心、回復があるよ。今日もイエス様と一緒に歩もう！！

2025/2/27(木)

## レビ記 15:16-33

今日の箇所は性的な部分を語っているね。性的なことは生きている間しか起きない事で、神様のいる天では起こらないんだ。だからこの『汚れ』というのは天と地では大きな違いがあるということなんだ。イエス様はとってもきよい方だったけど、それは神様によって与えられてからでもあるんだ。

私たちクリスチャンは人間であるから『汚れ』からは逃れられないけれど、神様がきよさを与えてくださるんだ。

神様がきよいものであるとされることに感謝して、祈ろう。

2025/2/28(金)

## レビ記 16章

今日の箇所は年1回守られている大贖罪の日(ヨム・キプール)について書いてあるよ。イスラエルでは今でもこの日を大切に守っているんだ。29-34vまでを読もう！

●この日はいつ行われた？ユダヤ暦では第一の月が4月頃だから、この日は何日本で言う何月になるかな？

●この章の一番最後には何と書いてあるかな？

●レビ記には大贖罪の日時ややり方など細かく決められている。モーセが全部の意味や理由が分かっていたかは書いてないけど、神様に従ったことは明確だ。きみはどうだろう？全て分かってないと従いたくないと思うことはないかな？

2025/3/1(土)

## レビ記 17章

今日の箇所では、屠った牛や羊などの家畜は必ず主にささげなければならないこと、そして血は飲み食いしてはいけないことが記されているね。

それはいけにえを他の神様に捧げる文化が近くにあったから、そして血はいのちそのものを意味していたからなんだ。

実際のいのちを犠牲にすることで人の罪が赦されていることが表されていたんだね。

今はそのいのちの犠牲は、イエス様の十字架の死によって、流された血潮によってなされている。それによって私たちの罪が赦されていることを覚えていこう！

2025/3/2(日)

## レビ記 18章

今日の箇所では、始まりと終わりに「わたしの掟とわたしの定めを守りなさい」と書かれています。5節には「人がそれを行うなら、それによって生きる」とも、書かれています。

救い出された民が、神のことばに従うのではなく、古くからある習慣や影響によって生きているのを神様は良しとされなかったんだね。

同じように神様の救いによって、いのちを生きようにとされた私たちは、何を守り、大切に生きていくのでしょうか。静まり、考えてみよう。

そして、朝のデボーションを通して、日々語られているみことばを生きることが出来るように、祈ろう。